

【全体講評】

事例Ⅳをのぞき、試験問題として対応が難しい事例でした。特に事例Ⅱは商店街全体が事例対象であること、根拠の示し方がこれまでのパターンと異なることから、80 分間での対応は相当厳しいです。そのため全体的には、「難しかった」という印象を持った受験者が多かったと思われます。ただ、結果的に約 2 割が合格するということを前提に考えると、「大事故を連発しなければよい」という点は変わっていません。

それぞれの事例について、簡単に特徴を整理してみます。

事例Ⅰは、例年通りといえば例年通りの出題内容でした。5 つの問題の中で比較的対応しやすい第 1 問、第 2 問、第 4 問である程度の得点を積み上げることができれば、十分にチャンスがあると思います。第 3 問、第 5 問はそれぞれタイプは異なりますが、難易度が高く、×になってしまう可能性が高い問題でした。

事例Ⅱは、すでに触れましたが商店街全体が事例対象で、その組合の代表理事から助言を求められた、という設定になっている点、地図、グラフも根拠として利用する点、クライアント（組合の代表理事）の要求（組合の課題）が明示されている点、など、これまでの事例とは大きく異なります。また、根拠の示し方が間接的なため、一層対応を難しいものにしたと思います。ただ、このような問題なので相当採点基準を緩くする可能性が高いですので、結果的に自己評価よりも高い得点になるのではないかと思います。

事例Ⅲは、事例Ⅱにつづき、工程図やグラフも与えられるパターンでした。ただし、こちらの図やグラフは、解答作成においてそれほど影響しない設定でした。しかし、問題構成的に、第 1 問（設問 3）、第 2 問、第 3 問の解答内容の切り分けが難しいです。「ある程度解答内容に重複があってもよい」という方針で対応できれば、十分な結果につながると考えられます。

事例Ⅳは、例年に比べてかなり難易度が低い問題構成、配点になっていました。第 2 問の CVP は、今年出題が予想されていた領域で、なおかつ大変簡単な設定でしたので、しっかり得点したい問題です。そうすれば第 1 問、第 4 問と合わせて 6 割を超える得点になるでしょう。第 3 問は、設問 1（特にケース 2）の出題者の意図がわかりにくく戸惑ったかもしれませんが、仮にできなくても影響は小さいと思われます。この結果、全体的に高得点になる答案が多いと思います。

以 上